

平成29年10～12月期結果(確報)の概要

I 今期の概況

1 今期の個人企業（個人経営の事業所）の業況判断D I

① 今期の業況判断

今期（平成29年10～12月期）の業況判断D Iは (-)54.9 で、前期（平成29年7～9月期）(-57.5)に比べ、2.6ポイントの改善。

② 来期の見通し

来期（平成30年1～3月期）の業況見通しD Iは (-)53.0 で、今期の業況判断(-54.9)に比べ、1.9ポイントの改善の見通し。

図1 業況判断D Iの推移 — 調査産業計 —

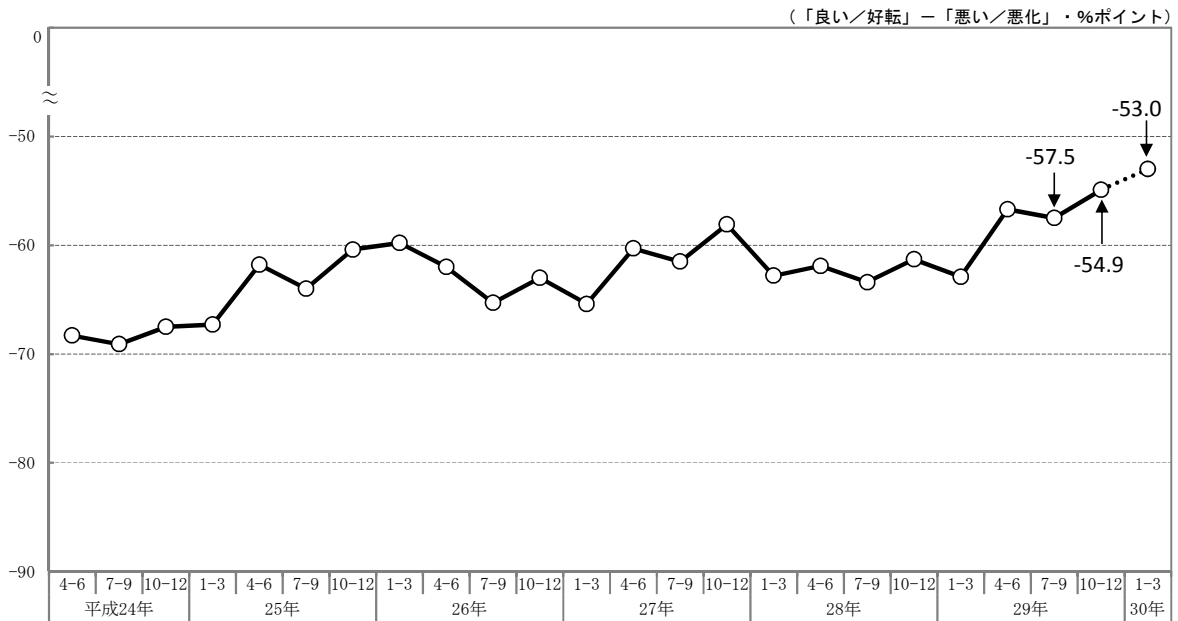


表1 業況判断の割合 — 調査産業計 —

	平成28年	29年				30年
	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期 見通し
今期の業況, 来期の業況 (%)						
良い/好転	3.4	3.4	3.1	3.5	4.6	3.9
普通/不変	31.9	30.4	37.1	35.5	35.9	39.3
悪い/悪化	64.7	66.3	59.8	61.0	59.5	56.9
D I	-61.3	-62.9	-56.7	-57.5	-54.9	-53.0

参 考	日銀短観(大企業全産業計)	14	16	20	23	25	19
	中小企業景況調査(全産業計)	-26.9	-28.7	-21.5	-21.9	-20.1	-15.4

(注) 「中小企業景況調査」：(独)中小企業基盤整備機構作成

(注) 今期の調査票回収時期は、平成30年1月上旬から中旬までである。

2 今期の売上高及び営業利益

① 今期の1事業所当たりの売上高は、			
□「製造業」は	259万7000円で、	前年同期に比べ、	1.5%の増加
□「卸売業、小売業」は	400万9000円で、	前年同期に比べ、	4.9%の増加
□「宿泊業、飲食サービス業」は	226万7000円で、	前年同期に比べ、	6.9%の増加
□「サービス業」は	128万6000円で、	前年同期に比べ、	7.2%の増加
② 今期の1事業所当たりの営業利益は、			
□「製造業」は	77万円で、	前年同期に比べ、	11.9%の増加
□「卸売業、小売業」は	39万7000円で、	前年同期に比べ、	2.0%の減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	41万5000円で、	前年同期に比べ、	7.2%の増加
□「サービス業」は	47万円で、	前年同期に比べ、	10.1%の増加

※前年同期：平成28年10～12月期

表2 産業別売上高及び営業利益

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
実数 (千円)	平成27年 10～12月期	2,379	644	4,065	484	2,312	470	1,285	471
	平成28年 1～3月期	2,293	685	3,566	353	2,253	418	1,134	379
	4～6月期	2,165	613	3,659	330	2,084	366	1,156	421
	7～9月期	2,092	580	3,638	388	2,107	418	1,139	427
	10～12月期	2,558	688	3,821	405	2,120	387	1,200	427
	平成29年 1～3月期	2,328	605	3,320	287	2,014	372	1,131	377
	4～6月期	2,478	641	3,621	385	2,109	409	1,242	496
	7～9月期	2,431	569	3,648	446	2,245	443	1,189	450
10～12月期	2,597	770	4,009	397	2,267	415	1,286	470	
前年同期比 (%)	平成27年 10～12月期	-2.7	-2.1	-7.3	-5.3	7.5	11.4	-1.2	-1.9
	平成28年 1～3月期	5.1	15.1	-1.0	-10.4	10.3	12.1	-7.6	-4.1
	4～6月期	-12.2	-8.9	-1.9	-22.9	-3.0	0.3	-12.9	-10.2
	7～9月期	-9.4	-14.1	0.8	6.0	-4.4	13.6	-6.3	-4.3
	10～12月期	7.5	6.8	-6.0	-16.3	-8.3	-17.7	-6.6	-9.3
	平成29年 1～3月期	1.5	-11.7	-6.9	-18.7	-10.6	-11.0	-0.3	-0.5
	4～6月期	14.5	4.6	-1.0	16.7	1.2	11.7	7.4	17.8
	7～9月期	16.2	-1.9	0.3	14.9	6.5	6.0	4.4	5.4
10～12月期	1.5	11.9	4.9	-2.0	6.9	7.2	7.2	10.1	

3 今期の設備投資額

① 今期の1事業所当たりの設備投資額は、			
□「製造業」は	9万8000円で、	前年同期（6万4000円）に比べ、	増加
□「卸売業、小売業」は	5万7000円で、	前年同期（9万3000円）に比べ、	減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	14万円で、	前年同期（8万4000円）に比べ、	増加
□「サービス業」は	4万2000円で、	前年同期（4万7000円）に比べ、	減少
② 今期の1事業所当たりの設備投資率（売上高に対する設備投資額の割合）は、			
□「製造業」は	3.8%で、	前年同期（2.5%）に比べ、	1.3ポイントの上昇
□「卸売業、小売業」は	1.4%で、	前年同期（2.4%）に比べ、	1.0ポイントの低下
□「宿泊業、飲食サービス業」は	6.2%で、	前年同期（4.0%）に比べ、	2.2ポイントの上昇
□「サービス業」は	3.3%で、	前年同期（3.9%）に比べ、	0.6ポイントの低下

※前年同期：平成28年10～12月期

表3 産業別設備投資額及び設備投資率

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業	
		設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)
平成27年	10～12月期	93	3.9	81	2.0	62	2.7	71	5.5
平成28年	1～3月期	70	3.1	53	1.5	55	2.4	72	6.3
	4～6月期	53	2.4	74	2.0	66	3.2	50	4.3
	7～9月期	169	8.1	56	1.5	177	8.4	36	3.2
平成29年	10～12月期	64	2.5	93	2.4	84	4.0	47	3.9
	1～3月期	121	5.2	46	1.4	46	2.3	43	3.8
	4～6月期	79	3.2	54	1.5	64	3.0	66	5.3
	7～9月期	110	4.5	63	1.7	72	3.2	33	2.8
	10～12月期	98	3.8	57	1.4	140	6.2	42	3.3

Ⅱ 業況判断

1 調査産業計

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成29年10～12月期）の業況判断D Iは（-）54.9 で、前期（平成29年7～9月期）（-57.5）に比べ、2.6ポイント改善した。

イ 前期と比較した業況判断D Iは（-）39.7 で、前期（-45.4）に比べ、5.7ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成28年10～12月期）と比較した業況判断D Iは（-）47.6 で、前期（-50.1）に比べ、2.5ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成30年1～3月期）の業況見通しD Iは（-）53.0 で、今期の業況判断（-54.9）に比べ、1.9ポイントの改善の見通しとなっている。

図2 業況判断D Iの推移 —調査産業計—

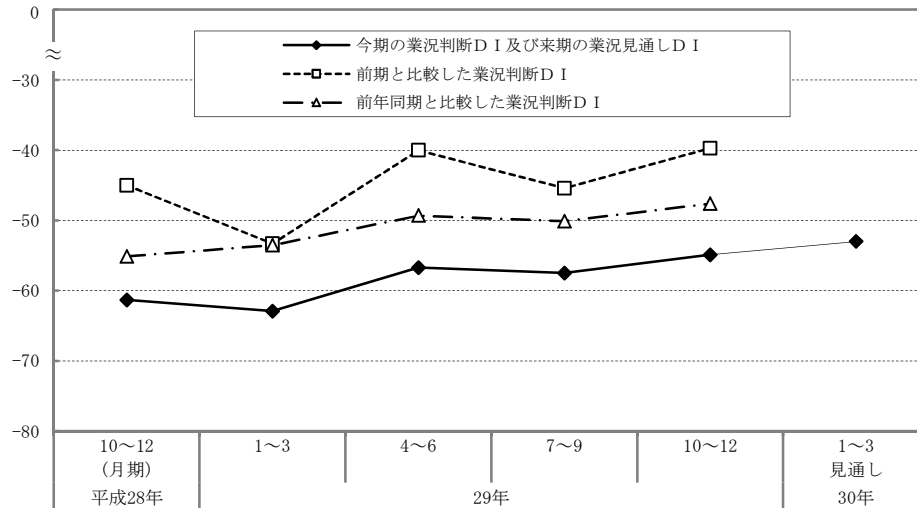
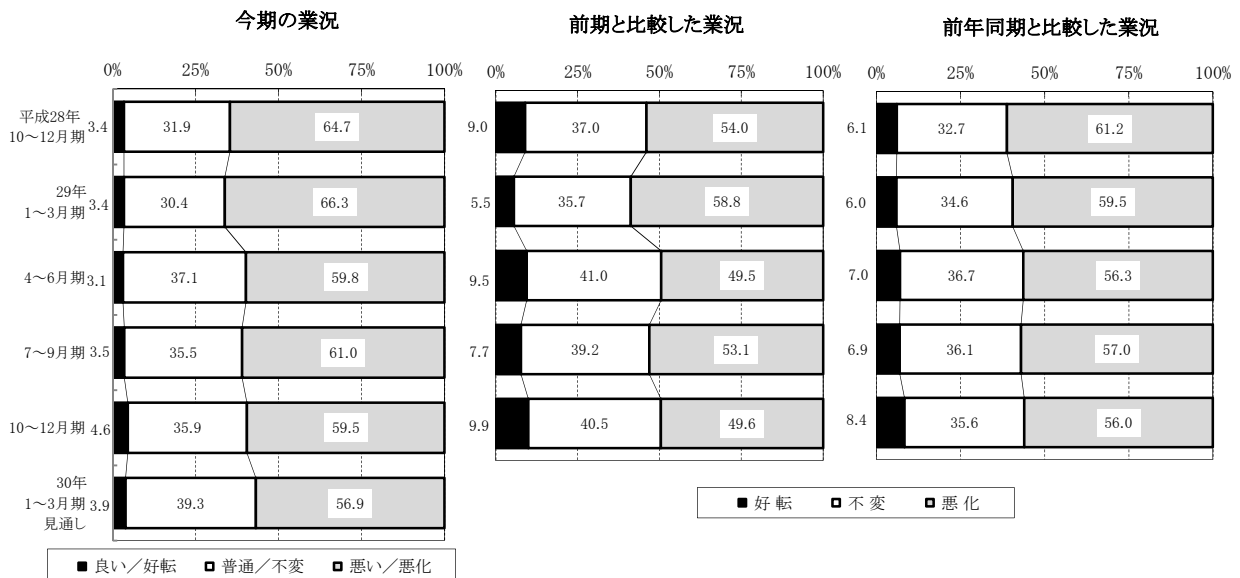


図3 業況判断の割合 —調査産業計—



(2) 売上の状況

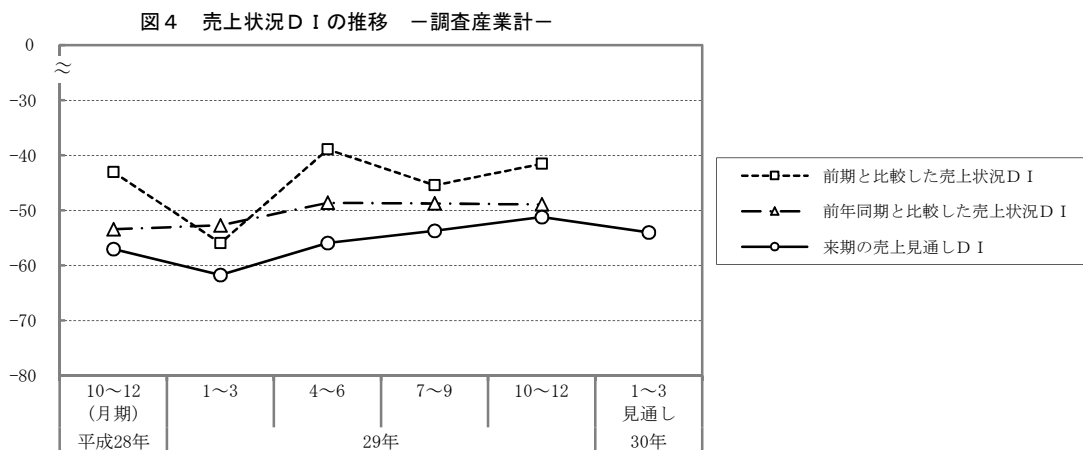
① 今期の売上の状況

ア 前期と比較した売上状況D Iは (-)41.5 で、前期 (-45.4) に比べ、3.9 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況D Iは (-)48.9 で、前期 (-48.7) に比べ、0.2 ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しD Iは (-)54.0 で、前期における今期の売上見通し (-51.2) に比べ、2.8 ポイントの悪化の見通しとなっている。



(3) 営業利益の状況

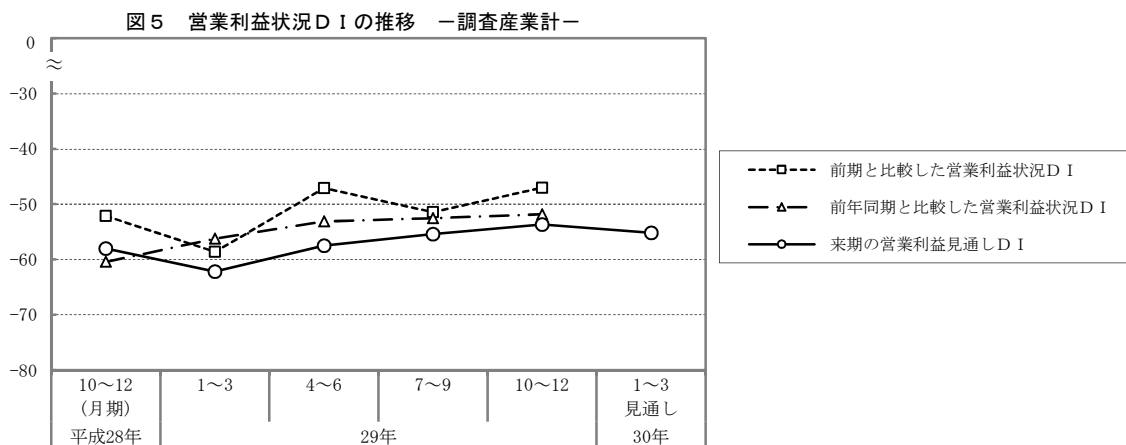
① 今期の営業利益の状況

ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)47.0 で、前期 (-51.4) に比べ、4.4 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)51.8 で、前期 (-52.5) に比べ、0.7 ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

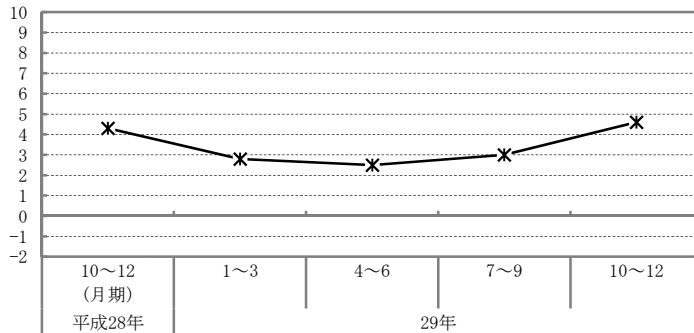
来期の営業利益見通しD Iは (-)55.2 で、前期における今期の営業利益見通し (-53.7) に比べ、1.5 ポイントの悪化の見通しとなっている。



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)4.6 で、前期 (+3.0) に比べ、1.6 ポイント「過剰」が拡大した。

図6 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -調査産業計-

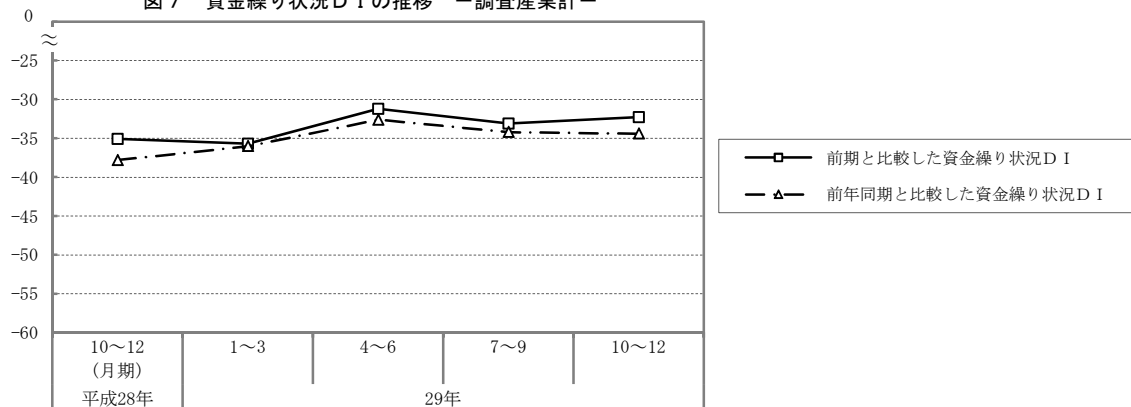


(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)32.3 で、前期 (-33.1) に比べ、0.8 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)34.4 で、前期 (-34.2) に比べ、0.2 ポイント悪化した。

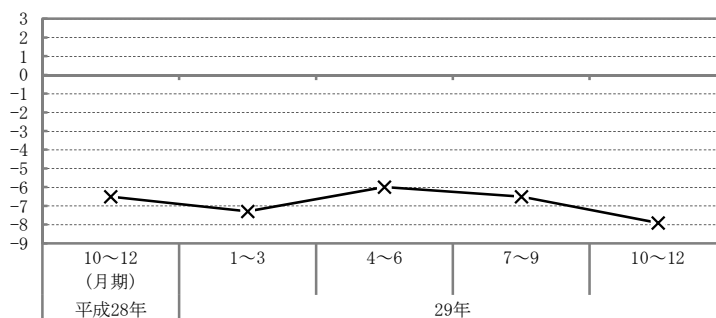
図7 資金繰り状況DIの推移 -調査産業計-



(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)7.9 で、前期 (-6.5) に比べ、1.4 ポイント「不足」が拡大した。

図8 雇用状況DIの推移 -調査産業計-



2 製造業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成29年10～12月期）の業況判断DIは(-)42.4で、前期（平成29年7～9月期）(-53.1)に比べ、10.7ポイント改善した。

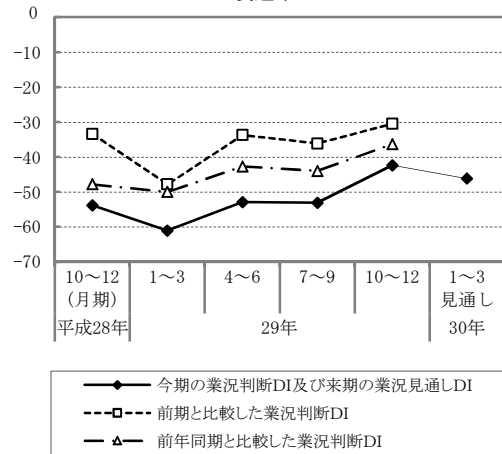
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)30.5で、前期(-36.1)に比べ、5.6ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成28年10～12月期）と比較した業況判断DIは(-)36.3で、前期(-44.0)に比べ、7.7ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成30年1～3月期）の業況見通しDIは(-)46.2で、今期の業況判断(-42.4)から、3.8ポイントの悪化の見通しとなっている。

図9 業況判断DIの推移
—製造業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

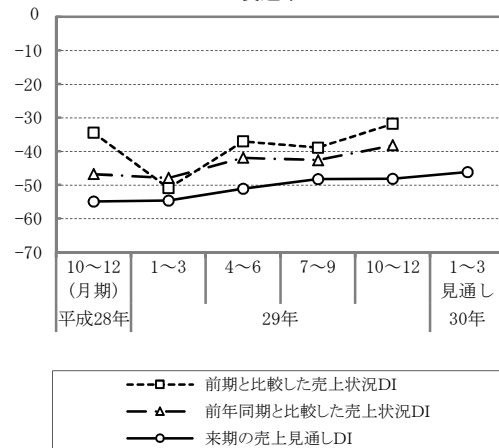
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)31.8で、前期(-38.9)に比べ、7.1ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)38.2で、前期(-42.6)に比べ、4.4ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)46.2で、前期における今期の売上見通し(-48.2)から、2.0ポイントの改善の見通しとなっている。

図10 売上状況DIの推移
—製造業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

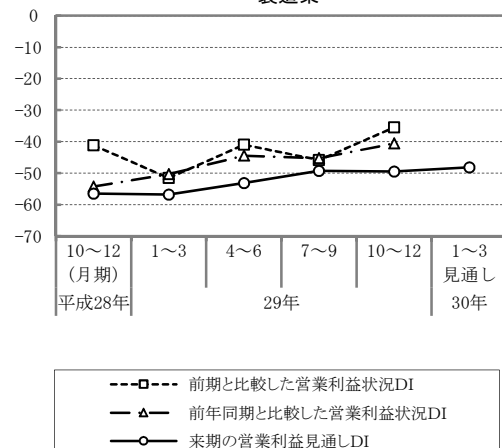
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)35.4で、前期(-45.8)に比べ、10.4ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)40.5で、前期(-45.2)に比べ、4.7ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)48.1で、前期における今期の営業利益見通し(-49.5)に比べ、1.4ポイントの改善の見通しとなっている。

図11 営業利益状況DIの推移
—製造業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)3.6 で、前期 (+3.6) から横ばいとなった。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)25.1 で、前期 (-29.6) に比べ、4.5 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)27.1 で、前期 (-29.4) に比べ、2.3 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)5.5 で、前期 (-4.4) に比べ、1.1 ポイント「不足」が拡大した。

図12 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -製造業-

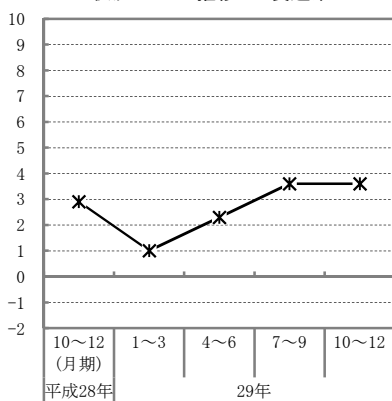


図13 資金繰り状況DIの推移 -製造業-

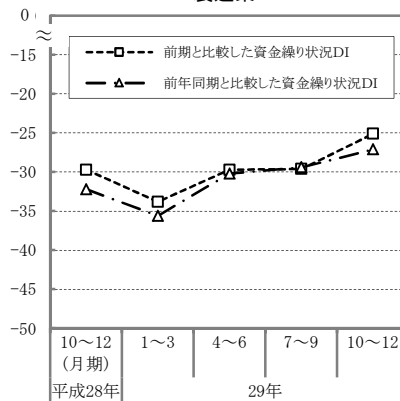
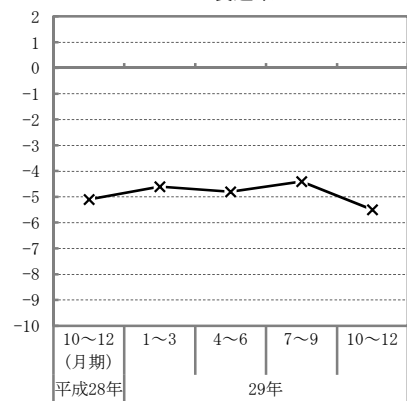


図14 雇用状況DIの推移 -製造業-



3 卸売業、小売業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成29年10~12月期）の業況判断DIは (-)57.7 で、前期（平成29年7~9月期） (-59.5) に比べ、1.8 ポイント改善した。

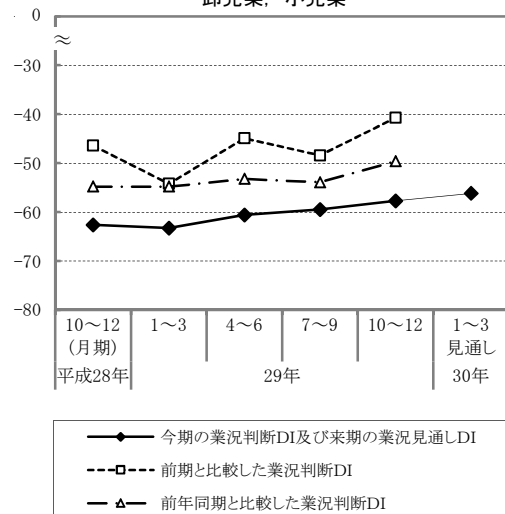
イ 前期と比較した業況判断DIは (-)40.7 で、前期 (-48.4) に比べ、7.7 ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成28年10~12月期）と比較した業況判断DIは (-)49.6 で、前期 (-53.9) に比べ、4.3 ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成30年1~3月期）の業況見通しDIは (-)56.2 で、今期の業況判断 (-57.7) に比べ、1.5 ポイントの改善の見通しとなっている。

図15 業況判断DIの推移 -卸売業、小売業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

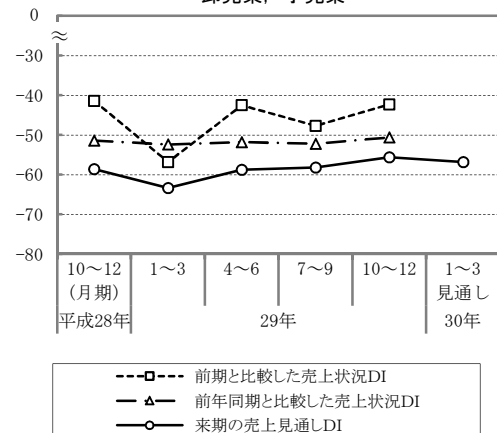
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)42.3で、前期(-47.7)に比べ、5.4ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)50.6で、前期(-52.2)に比べ、1.6ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)56.8で、前期における今期の売上見通し(-55.6)に比べ、1.2ポイントの悪化の見通しとなっている。

図16 売上状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

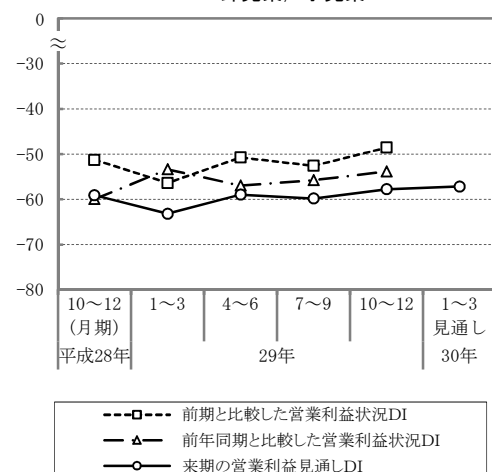
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)48.6で、前期(-52.6)に比べ、4.0ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)53.9で、前期(-55.8)に比べ、1.9ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)57.2で、前期における今期の営業利益見通し(-57.8)に比べ、0.6ポイントの改善の見通しとなっている。

図17 営業利益状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+)7.0で、前期(+4.5)に比べ、2.5ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)33.9で、前期(-35.3)に比べ、1.4ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)36.6で、前期(-36.9)に比べ、0.3ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)7.3で、前期(-5.7)に比べ、1.6ポイント「不足」が拡大した。

図18 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -卸売業、小売業-

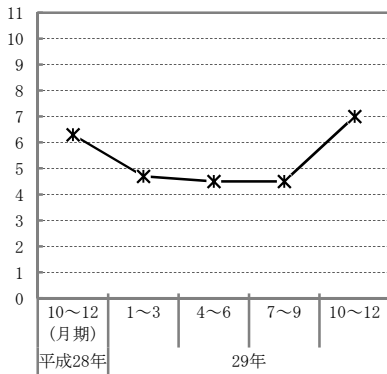


図19 資金繰り状況DIの推移 -卸売業、小売業-

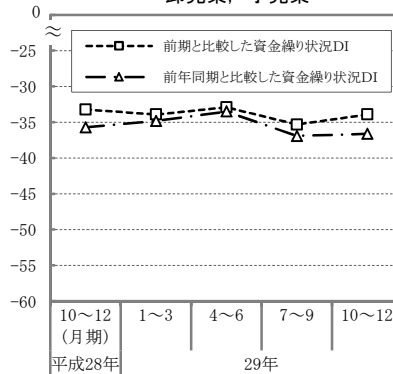
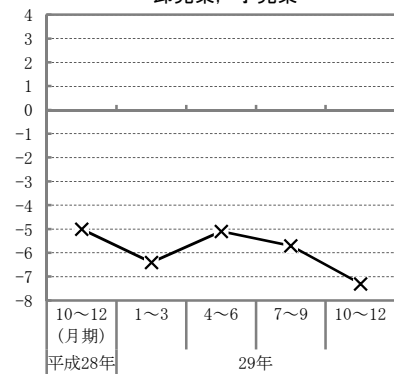


図20 雇用状況DIの推移 -卸売業、小売業-



4 宿泊業、飲食サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成29年10~12月期）の業況判断DIは(-)52.0で、前期（平成29年7~9月期）(-57.7)に比べ、5.7ポイント改善した。

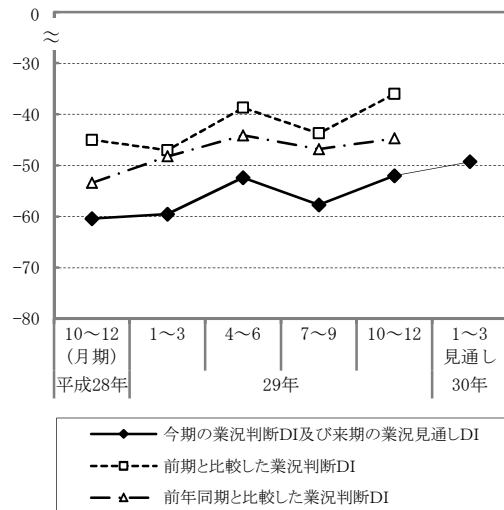
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)36.0で、前期(-43.7)に比べ、7.7ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成28年10~12月期）と比較した業況判断DIは(-)44.7で、前期(-46.8)に比べ、2.1ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成30年1~3月期）の業況見通しDIは(-)49.3で、今期の業況判断(-52.0)に比べ、2.7ポイントの改善の見通しとなっている。

図21 業況判断DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

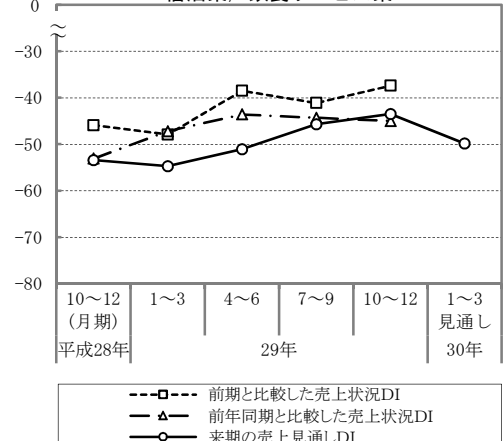
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)37.4で、前期(-41.1)に比べ、3.7ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)45.0で、前期(-44.3)に比べ、0.7ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)49.8で、前期における今期の売上見通し(-43.5)に比べ、6.3ポイントの悪化の見通しとなっている。

図22 売上状況DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

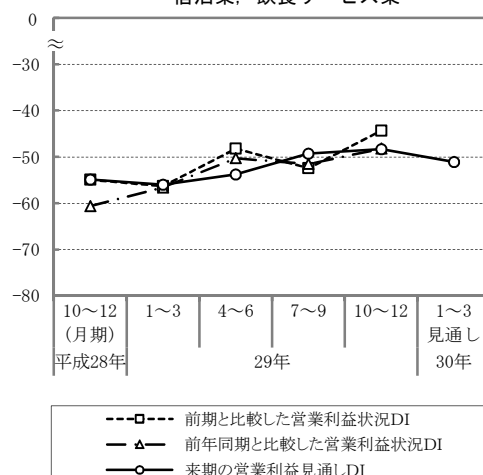
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)44.3で、前期(-52.4)に比べ、8.1ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)48.2で、前期(-51.5)に比べ、3.3ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)51.1で、前期における今期の営業利益見通し(-48.3)に比べ、2.8ポイントの悪化の見通しとなっている。

図23 営業利益状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+)3.7で、前期(+1.5)に比べ、2.2ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)33.6で、前期(-35.9)に比べ、2.3ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)34.2で、前期(-35.7)に比べ、1.5ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)11.5で、前期(-9.0)に比べ、2.5ポイント「不足」が拡大した。

図24 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

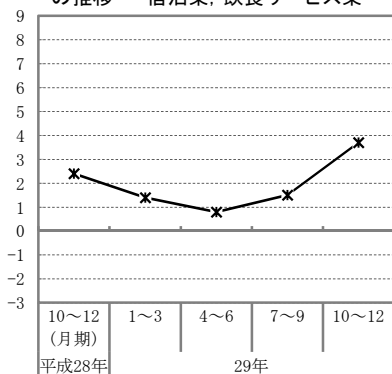


図25 資金繰り状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

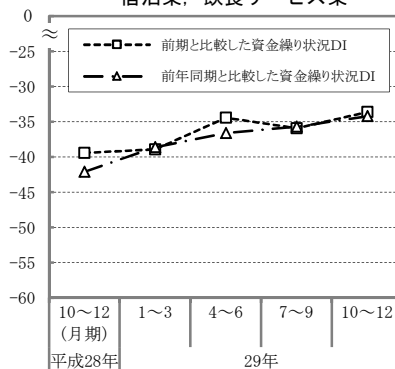
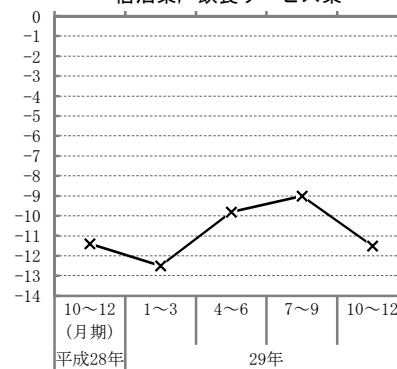


図26 雇用状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



5 サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成29年10～12月期）の業況判断DIは（-）58.3で、前期（平成29年7～9月期）（-56.4）に比べ、1.9ポイント悪化した。

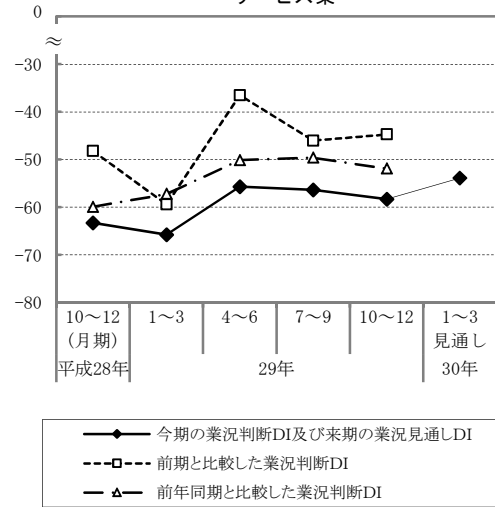
イ 前期と比較した業況判断DIは（-）44.7で、前期（-46.0）に比べ、1.3ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成28年10～12月期）と比較した業況判断DIは（-）51.9で、前期（-49.6）に比べ、2.3ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成30年1～3月期）の業況見通しDIは（-）53.9で、今期の業況判断（-58.3）に比べ、4.4ポイントの改善の見通しとなっている。

図27 業況判断DIの推移
—サービス業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

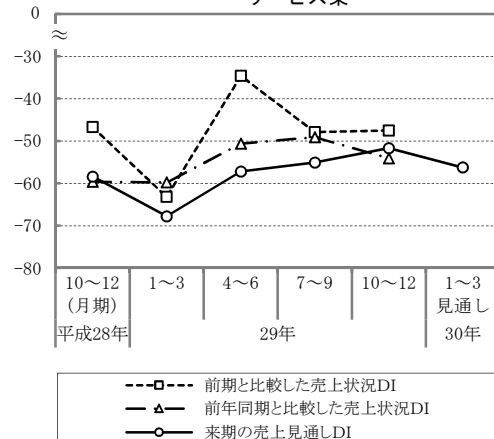
ア 前期と比較した売上状況DIは（-）47.5で、前期（-47.9）に比べ、0.4ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは（-）54.1で、前期（-49.1）に比べ、5.0ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは（-）56.3で、前期における今期の売上見通し（-51.7）に比べ、4.6ポイントの悪化の見通しとなっている。

図28 売上状況DIの推移
—サービス業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

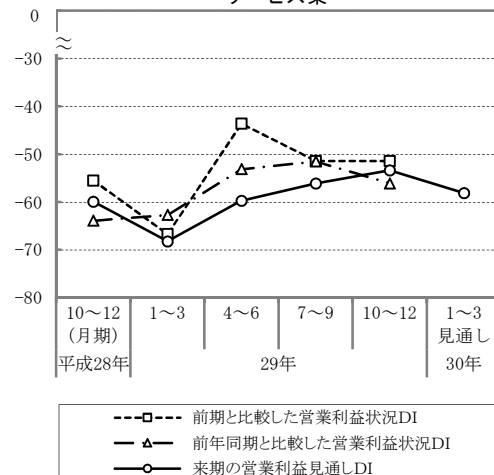
ア 前期と比較した営業利益状況DIは（-）51.4で、前期（-51.4）から横ばいとなった。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは（-）56.1で、前期（-51.5）に比べ、4.6ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは（-）58.1で、前期における今期の営業利益見通し（-53.4）に比べ、4.7ポイントの悪化の見通しとなっている。

図29 営業利益状況DIの推移
—サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+) 2.0 で、前期(+ 1.5)に比べ、 0.5 ポイント「過剰」が拡大した。

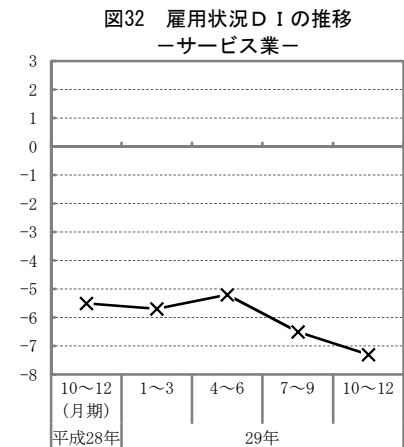
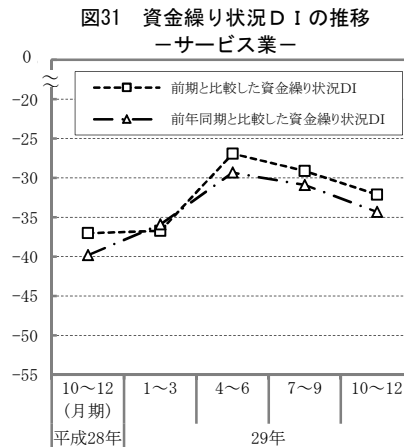
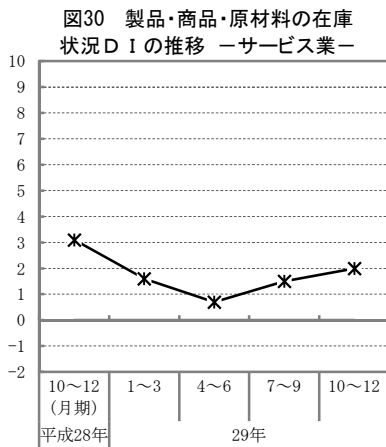
(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-) 32.1 で、前期(- 29.1)に比べ、 3.0 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-) 34.3 で、前期(- 30.9)に比べ、 3.4 ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-) 7.3 で、前期(- 6.5)に比べ、 0.8 ポイント「不足」が拡大した。



Ⅲ 営業収支

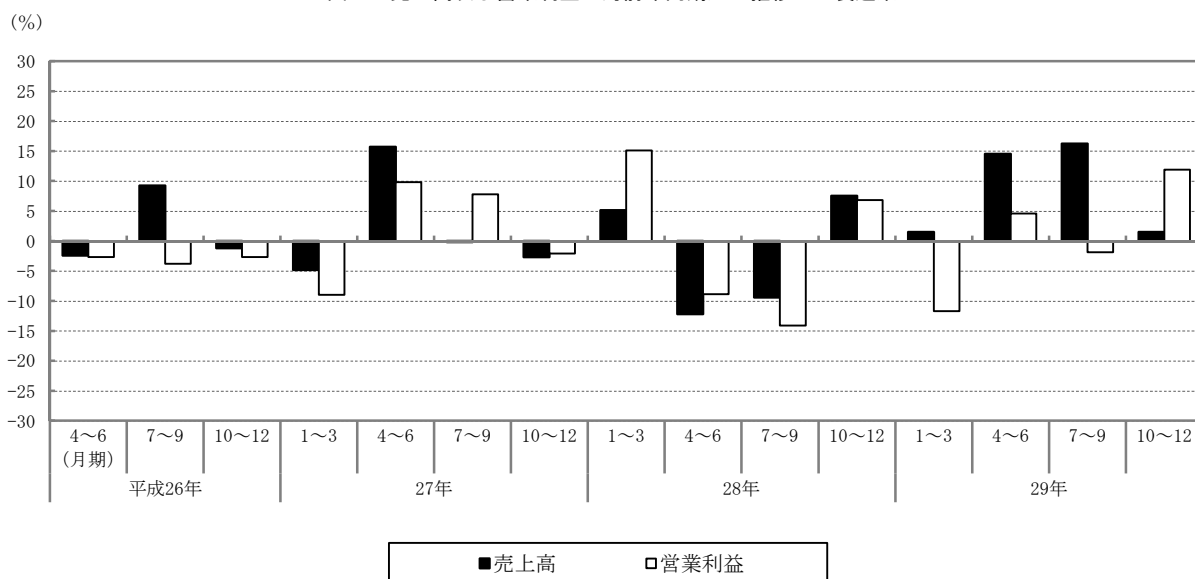
1 製造業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は259万7000円で、これに対する費用は売上原価が83万7000円、営業費が99万円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は77万円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 1.5% で、5期連続で増加した。また、営業利益は(+) 11.9% で、2期ぶりに増加した。

図33 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 — 製造業 —

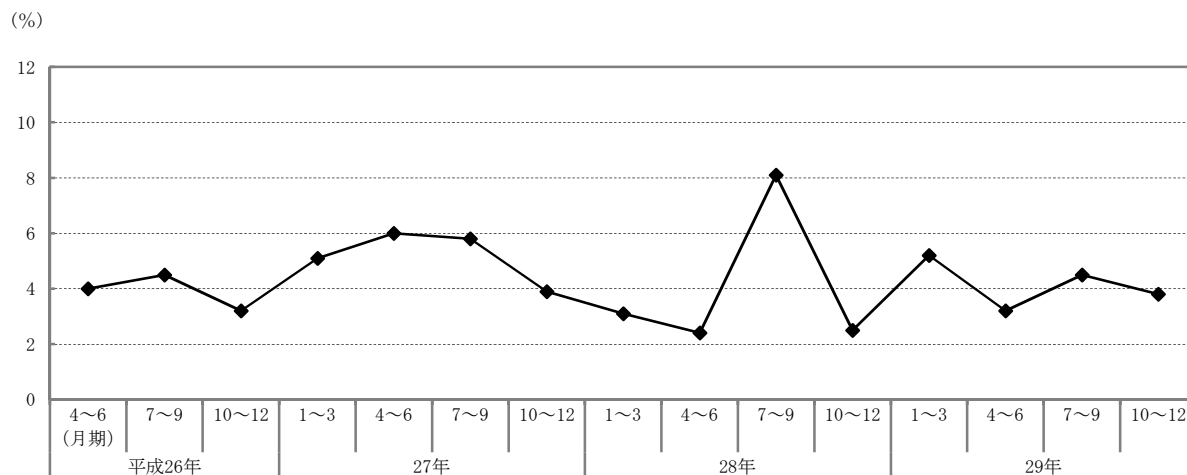


(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は9万8000円で、前年同期(6万4000円)を上回った。

また、設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は 3.8% で、前年同期(2.5%)を1.3ポイント上回った。

図34 設備投資率の推移 — 製造業 —



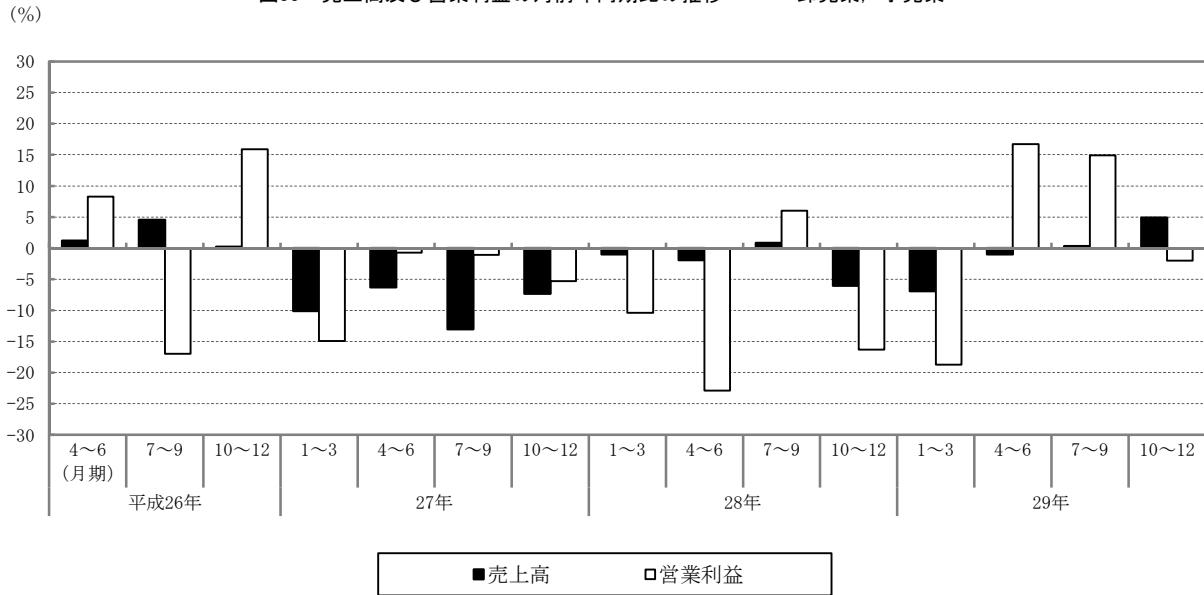
2 卸売業、小売業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は400万9000円で、これに対する費用は売上原価が271万9000円、営業費が89万3000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は39万7000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 4.9% で、2期連続で増加した。また、営業利益は(-) 2.0% で、3期ぶりに減少した。

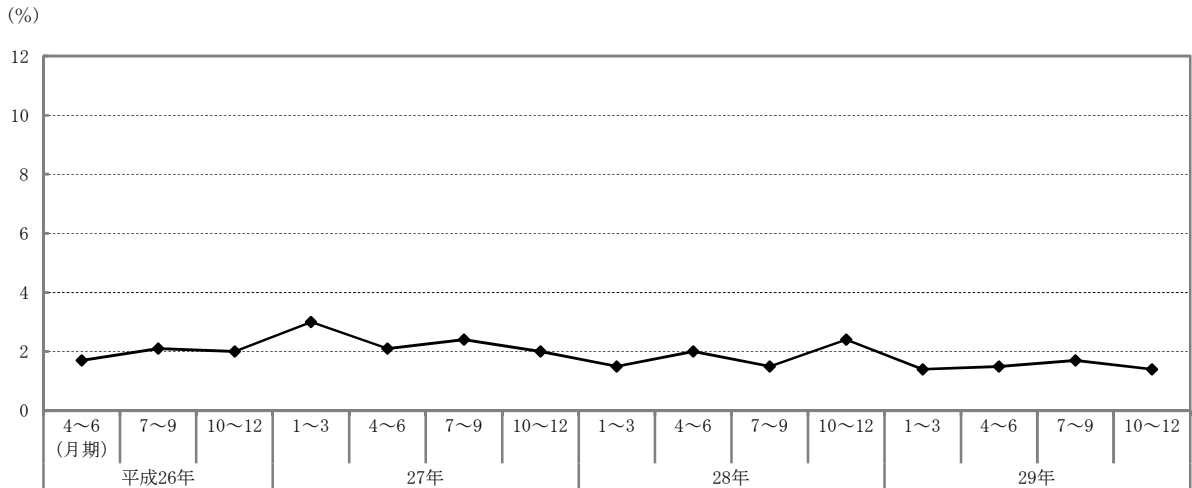
図35 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 ー卸売業、小売業ー



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は5万7000円で、前年同期(9万3000円)を下回った。また、設備投資率は 1.4% で、前年同期(2.4%)を1.0ポイント下回った。

図36 設備投資率の推移 ー卸売業、小売業ー



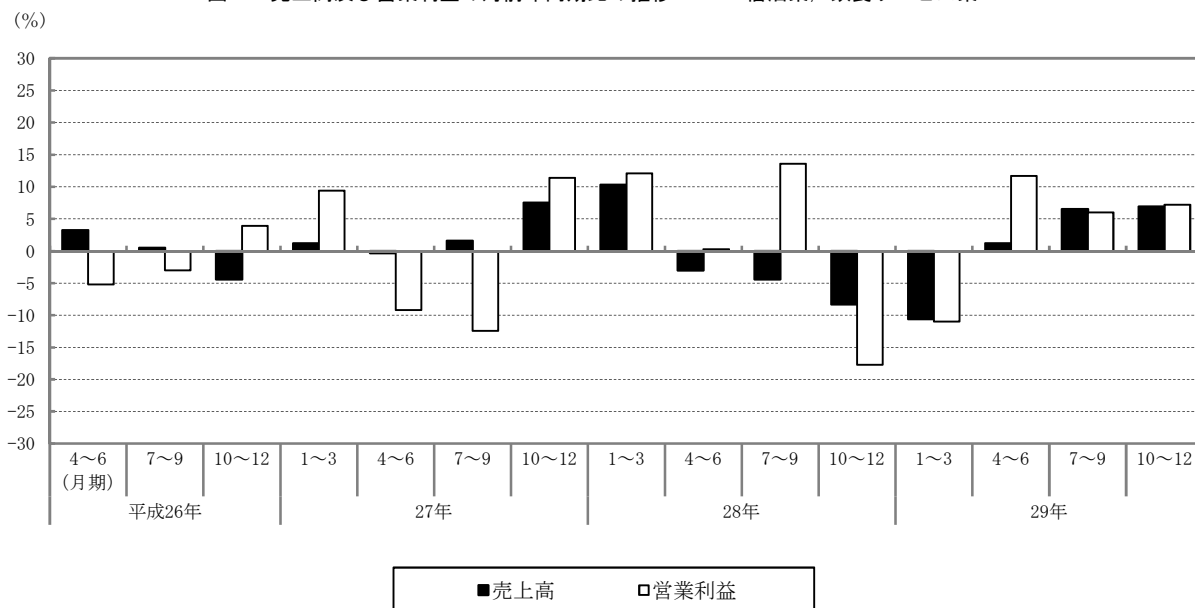
3 宿泊業，飲食サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は226万7000円で、これに対する費用は売上原価が96万7000円、営業費が88万5000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は41万5000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 6.9% で、3期連続で増加した。また、営業利益は(+) 7.2% で、3期連続で増加した。

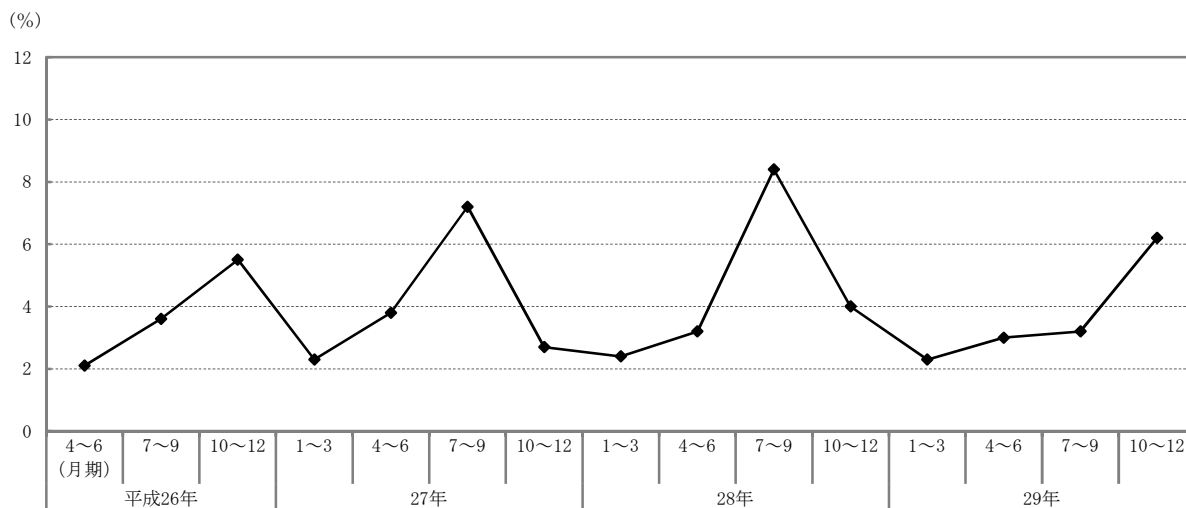
図37 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 ー宿泊業，飲食サービス業ー



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は14万円 で、前年同期(8万4000円)を上回った。また、設備投資率は 6.2% で、前年同期(4.0%)を 2.2 ポイント上回った。

図38 設備投資率の推移 ー宿泊業，飲食サービス業ー



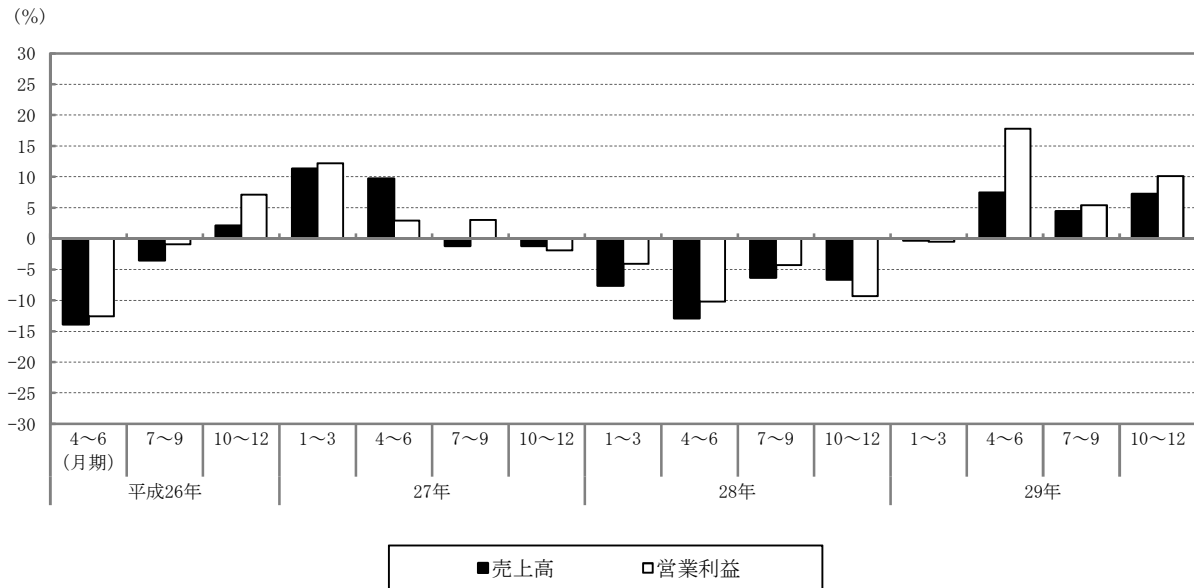
4 サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は128万6000円で、これに対する費用は売上原価が19万1000円、営業費が62万6000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は47万円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 7.2% で、3期連続で増加した。また、営業利益は(+) 10.1% で、3期連続で増加した。

図39 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 -サービス業-



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は4万2000円で、前年同期(4万7000円)を下回った。また、設備投資率は 3.3% で、前年同期(3.9%)を0.6ポイント下回った。

図40 設備投資率の推移 -サービス業-

